



# おすすめ児童書11月



啓林堂書店 外商部



担当 森川・蔵田・八部・表野

Tel 0743-51-1000 / Fax 0743-53-5151



e-mail gaisyoubu@books-keirindo.co.jp

啓林堂書店HP <http://www.books-keirindo.co.jp/>

## ▽ 幼稚園・保育園以上

	<p><b>どんぐりころころ</b></p> <p>監修 大久保茂徳 写真撮影 片野隆司</p> <p>¥1,430</p> <p>秋になると林や公園などに落ちているどんぐり。よく見ると大きさや形もいろいろです。この絵本には17種類の実物大のどんぐりの写真や、どんぐりの春から秋にかけての成長の様子が載っています。どんぐり拾いの季節にぴったりの写真絵本です。地面に落ちたどんぐりはその後どうなるのかな？</p> <p>ひさかたチャイルド : 2007年 発売</p>
	<p><b>めんたべよう!</b></p> <p>作 小西英子</p> <p>¥1,650</p> <p>絵本を開くと麺を食べさせてくれるお店が登場。うどんにおそば、スパゲッティにラーメン…。器に盛られた出来立ての麺たち、その数全部で26種類。「自分が一番おいしいよ!」ってみんな誘っています。「うどんだったら…。」ひたすら何を食べようか迷い続ける絵本です。さあ、今日は何食べる？</p> <p>福音館書店 : 2018年 発売</p>

## ▽ 小学生以上

	<p><b>花さき山</b></p> <p>作 斎藤隆介 絵 滝平二郎</p> <p>¥1,430</p> <p>山に祭りのごちそうの山菜をとりにきて迷ってしまったあや。そこであやは不思議なばばに会いました。そこには一面の花。ばばは「ふもとの村のにんげんがやさしいことをひとつするとひとつさく。」と教えてくれました。耐える事が必要な時、一生懸命何かをしている時、見えない所で誰かが見ていてくれる…そう思える絵本です。</p> <p>岩崎書店 : 1978年 発売</p>
	<p><b>もしも日本人がみんな米つぶだったら</b></p> <p>文 山口タオ 絵 津川シンスケ</p> <p>¥1,430</p> <p>「お茶わん一杯に何粒の米があるのかな？」気になって寝れない男の子の前に現れた「米とのさま」。</p> <p>米とのさまは「じゃあ数えてみよう」とお米の単位や数や量をわかりやすく教えてくださいます。一合、一斤、一斗、一石…。</p> <p>お茶わん一杯には米何粒？そして日本人の人口は米何粒？お米の総合学習絵本です。</p> <p>講談社 : 2004年 発売</p>